

新たに期待される薬や技術の可能性

座長 日本薬剤師会理事

堀越博一
久留米大学病院薬剤部副部長
三輪涼子

医療システムのIT化に加えて、機械学習と深層学習を利用した人工知能(AI)の医療での活用も進み始め、画像解析による診断補助や高性能なコンピュータによる創薬支援やデジタル治療など、テクノロジーが医療進化の速度を早め、各社がしのぎを削って製品を開発している状況にある。本分科会では、診断、治療のあらゆる分野における最新の技術を用いた開発にスポットをあて、今後の医療技術の進歩とその可能性について考えてみたい。

基調講演は、「デジタルヘルス、モバイルヘルスにおけるAI活用による診断技術・医薬品開発」と題して立命館大学テクノロジー・マネジメント研究科の児玉耕太准教授に、モバイルヘルス領域での研究開発の動向やAI活用による診断技術、医薬品開発におけるイノベーションの可能性について講演いただく。

次にデジタル病理診断支援ソリュー

ションを提供するメドメインの飯塚統代表取締役CEOから「AIによる病理画像解析とがんコンパニオン診断への適用の展望」と題し、飛躍的な進化を見せている深層学習を利用した画像認識領域におけるAIの開発に際しての取り組みと展望について講演いただく。

塩野義製薬経営戦略本部デジタルインテリジェンス部の里見佳典グループ長からは、日本でも昨年、ニコチン依存症に対し治療効果を持つアプリが医療機器として承認され保険適用された現状を踏まえ「日本及び世界の治療用アプリの現状と今後の課題について」講演いただく。

さらに和歌山県立医科大学薬学部の赤池昭紀教授から「プログラム医療機器としてのデジタル医薬品の現状と課題」と題し、デジタル医薬品の患者への提供体制構築のため、適正な提供・使用の実現、薬物療法との安全な併用など諸課題検証への薬剤師参画の必要性などデジタル医薬品の現状と課題について講演いただき、最後に今後の医療技術の進歩とその可能性について総合討論を行う。

(三輪涼子)

医療安全に向けた新たな取り組み

座長

日本薬剤師会副会長

福岡県薬剤師会副会長

川上純一

成重賢司

薬剤師の業務は、基本的な調剤を疎かにすることなく礎とし、モノからヒトへとシフトする中、安心、安全な薬物療法を来局者、患者に提供する必要がある。

日頃の業務において、タスクシフトしながらも「安全」は至極当然であり、様々な監査をすり抜けて過誤を招いてしまわないよう努力している。「To err is human(ヒトは誰でも間違える)」とあるが、過誤をゼロに近づけるための様々な確認作業は時間も必要となる。機器等を活用することで、対人業務充実へとつなげられるよう議論したい。

本分科会では、最初に慶應義塾大学薬学部の山浦克典教授から、「薬局のヒューマンエラー今むかし」と題して、

医療安全が求められた時代から現状までの約30年間の環境等の変化について基調講演をいただく。

次に、超高齢社会の進展に伴い腎機能の低下した患者が増加している中、適切な処方監査の必要性について「薬局薬剤師の視点で開発された腎機能を考慮した処方監査システム」と題して、熊本大学大学院生命科学研究所・薬学部臨床薬理学分野の近藤悠希准教授に講演をいただく。

さらに、対人業務へとシフト変更する上で、業務の効率化と共に安全性が求められる中で自動化、機器の活用について「ロボット導入やクローズドループ設計思考による調剤の安全性支援」と題してユヤマ学術部の森和明部長に、「保険薬局への自動入庫払い出しシステム導入による調剤過誤低減と将来展望」と題して日本ベクトン・ディッキンソンメディカルアフェアーズの東坂秀作マネージャーに講演をいただく。

(成重賢司)

COVID-19と薬剤師

～経験を通じて今後を考える～

座長

日本薬剤師会理事

福岡県薬剤師会常務理事

笠井秀一

山口信也

昨年3月のCOVID-19パンデミック宣言後、薬剤師を取り巻く環境は大きく変わっている。コロナ禍における薬剤師の医療現場での役割は多岐にわたるが、重要な役割として、多くの情報の中から正しい情報を地域住民に正確に伝達することが挙げら

れる。そのためには医療従事者間の情報共有も重要になる。ワクチン接種が始まると、多くの情報が錯綜したため、ワクチンに対する疑問や不安の解消が薬剤師の大きな役割の一つとなった。

本分科会では薬剤師の役割と活動について、実際の取り組み事例をもとに情報共有と伝達について、今後の課題を考えながら議論する。

基調講演は「COVID-19禍から学ぶ今後の医療」と題して、DMATとして常にCOVID-19対策の最前線で活躍

されている国立病院機構九州医療センターの野田英一郎センター長に福岡県独自の情報共有システムを通して、情報共有と協力体制構築の重要性について講演いただく。

続いて日本薬剤師会の磯部総一郎専務理事には、医薬品供給、薬局経営の財政支援、環境衛生など、薬剤師の役割と実際の活動について日本薬剤師会の取り組み事例を交えて説明していただく。

新型コロナウイルスワクチンについては2人からお話いただく。

最初に熊本県薬剤師会の富永孝治会長に、市町村で対応困難な専門的相談を受け付ける電話相談窓口を開設した経緯と、実際の相談内容などを話していただく。その中で今後実施すべき感

染対策やその際に薬剤師および薬剤師会が適切にその役割を果たすために何が必要かということについても講演いただく。

最後は日本医薬品卸売業連合会業務システム委員会の古井直業委員長に新型コロナワクチン供給における流通の現状と課題について、卸の立場から品質と安心安全を担保し、大規模なコールドチェーン(低温物流)を担っている現状と課題について講演いただく。

薬剤師の役割は、医療従事者として以外にも行政との調整役など新たな役割が増えてきている。情報共有をキーワードに今後の対応について討論したい。

(山口信也)

薬局本部システム 『ミザル』

共創未来グループ

発注業務や棚卸業務の効率化

発注業務の効率化

棚卸業務の軽減

各社レセコンと連動

業務の効率化! 『ミザル』の機能

POINT ① 処方データに基づいた自動発注

発注担当者の経験に頼った発注から、処方データに基づく自動発注へ。発注業務の大幅な効率化により、患者さま中心の対人業務にシフトすることができます。

自動発注機能

1. 長期処方発注 … 患者単位の次回来局日の処方予定数量を予測
2. 需要予測発注 … 過去の処方データを基に適正な在庫量を予測

▼自動発注機能画面



POINT ② 棚卸業務の負担を軽減

発注端末「Future ENIF」を利用した棚卸機能で、業務の負担を軽減できます。

棚卸結果送信

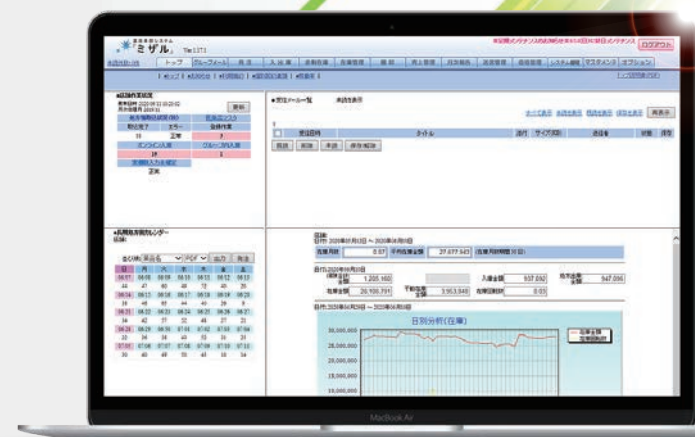
棚卸画面



Future-ENIF
小数点第二位まで入力が可能

| 品名 | 実在庫 | 単位 |
|-----|------|----|
| 44 | 60 | 個 |
| 89 | 89 | 錠 |
| 21 | 21.5 | 錠 |
| 347 | 347 | 錠 |
| 164 | 164 | 錠 |

棚卸結果は、『ミザル』の画面に自動反映



東邦薬品株式会社 CS営業部

〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー12F
TEL.050-3815-0193 ■営業時間 9:00~18:00 (土曜・日曜・年末年始を除く)